

資料報告

ゴンボダネ事例

細野 由美

<はじめに>

以前『常民文化』3号に「憑きものに関する一考察」を發表した。その後憑きもの研究から離れていたため、新しく發表できる資料がないことと、極力前回の重複を避けたことにより、個々の資料は断片的である。

ところで、これまでにゴンボダネについて書かれたものはいくつかあるが、¹⁾多くの聞き書きと文献を駆使した須田圭三の「憑きもの俗信—飛騨の牛蒡種」以外には、ゴンボダネに関して体系化したものは、現在まで見出しえない。この著書は非売品のため、部分的ではあるが内容紹介の意味もあり、数箇所引用した。(須田の著書中には地名・話者と職業が明記されているが、あえて非売品としたその意志を尊重し、筆者の判断によりすべて記号化した。)そしてこれまでに報告されたもの、私の調査結果を本稿と『常民文化』3号を合わせることによって、ゴンボダネに関する大部分が網羅されると思う。

なおここに記したものは、多くの話者から聞き得たものも、一人の話者のみから採取したものも並列している。また名の由来については諸説あり、起源までさかのぼる問題になるため、引用を除いては「ゴンボダネ」で統一して記す。

<話者>

話者の生年のみ紹介する。以下資料の末尾に書かれた記号は、話者と一致する。

A…明治42年生

B…明治36年生

C…明治35年生

D…昭和8年生

E…明治38年生

F…明治31年生

G…明治26年生 H…明治24年生 J…明治42年生

K…明治41年生 L…明治32年生

<調査地の信仰>

- 調査5部落のうち、4つまでが白山神社を氏神とする。
- 大半が臨済宗妙心寺派である a 寺と b 寺の壇家であるが、a 寺は文永年間まで天台宗と思われる。
- 浄土真宗の寺は調査対象部落にはないが、同村には2つあり、所によっては半数以上が真宗の場合もある。飛騨において真宗がさかんになるのは1500年代と思われるが、その際に「御坊様の鐘の音の聞こえる地域は牛蒡種は発生しない」「真宗の栄える土地に牛蒡種は発生しない」といいながら布教したのではないだろうか。²⁾
- 神道の家もあるが、ここの神道は葬式だけのものである。
- 御岳講は戦前まではさかんだった。

<ゴンボダネスジの数>

- a 部落では1割…A
70～80軒中約10軒…F
- b 部落では約半数…E
- c 部落では1割…C
スジでない方が少い…F
- d 部落には4軒あったが、1軒は中傷に耐えかねて引越した…L
- e 部落には若い頃4～5軒あった…H
数軒…J

筆者コメント・調査にあたって、ゴンボダネの家を具体的に知り得なかったの
で、正確な数は不詳。

<ゴンボダネの形状>

- 行者が長野県から高根村中洞へ参ります途中、土石の沢山あるゴウロという土地に来ましたところ、そこに牛蒡種の眷族が日なたほっこををしているのを見ました。それで行者はあちこちの茶屋で高根村には牛蒡種がいると告げて歩いたといひます。(須田が○山○三郎より聞いた話³⁾)

・牛蒡種の姿を見た人の話によると、牛蒡種は鼠より小さく可愛らしい動物ですが、なかなか見えにくいそうです。また黒焼きにして飲むとどんなに恐ろしい牛蒡種が憑いていてもすぐ落ちるそうです。(○山○三郎談⁴⁾)

筆者コメント・ゴンボダネの特徴は人間の生霊がとり憑くことである。ところがここでは他の憑きものとの混同がみられる。形はイヅナに似ている。行者が話を流布している事も興味深い。

<憑かれた理由>

- ・スジの人と喧嘩をした後で憑かれた…A
- ・ある時、風邪で学校から早退する途中でスジの人に会い、立ち話をしただけ…A
- ・恨みよりは、スジの人が何かを欲求した時に憑かれる…B、H
- ・むしろ恨みが多い…J
- ・病気など、こちらに弱味のある時…A、D、G、L
- ・自分のシンショが悪いから、自分よりもシンショの良い家に憑く、スジの家が豊かだったら憑かないのではないか…J

<スジ伝播の男女差>

- ・男女の区別はない…全話者
- ・もしその家の娘が嫁に行くと、その子供はスジになるが、聾や聾の家族はスジにならない。その子供が仮に男だとすると、貰う嫁はスジでなくとも間にできた子供はスジになる。⁵⁾

<憑依者・被憑依者の性格>

(a)憑かれる人について

- ・無知で、自分が憑かれるのではないかといつも思っている人が、自己催眠にかかるのではないか…F
- ・無知でおとなしく、素直な人…B

(b)憑く人について

- ・一般的に女性が多いといわれるが、当地ではそうともいえない。男女の差はない…全話者
- ・ごうまんな人…B

(c)スジとされる人について

・ゴンボダネスジは系統的にいて、いい頭をもっている。俗人ではないと考えられているようである。結核・癩病もスジと考えられているが、それよりももっと恐ろしいとみている。⁶⁾

・牛蒡種の性格については特に詳細は見られないが、岡村氏(利平)は「この種の男女は普通人に比して恋愛濃厚(俗語・深惚れする)の傾向あるよし」といっている。また私(須田圭三)の調査した範囲では世間からは「偉い人」とされているとか、また「頭のよい人」「計算に秀でた人」といわれている場合が多い。⁷⁾

・ゴンボダネの人は普通の人よりもきりょうがいいように思う…E

<ゴンボダネが憑かない場合>

・ゴンボダネの人でも誰もが憑くのではなく、気が強い人が憑き、温厚な人は憑かない…E、J、L

・ゴンボダネは、その人よりも弱い人に憑くので、人望家やその人より強い人は憑かれない…C

・年上の人に対しては力が無いし、高山のやうな人家稠密の場所へ来ては何等の作用を爲さぬ由。⁸⁾

・牛蒡種の威力も、いくら部外の人でも郡長とか村長・警察署長とかいう目上の人に対しては、効果を發揮することが出来ぬと云ふ話である。⁹⁾

筆者コメント・長野県できいたところによると、靈驗あらたかな神の札のあるところではイツナは憑かない。

<憑依現象>

・憑いた人の声で恨み事を言うので、誰が憑いたかすぐわかった…B

・憑いた人と同じ声・顔つきでその人の代弁をする。憑かれるとやたらと歩きまわる。ワシ(話者)の知った人でも、腰を抜かした人なのに、突然飛び起き、みんながついて行けないようなスピードで歩き回った。力が強くて2~3人がかりでやっととめた…C

・考えられないほどの力を出すこともあり、また憑いたと思われる家へ、ふらふらやってきた。本人は自分の家に帰ってきたんだと言ってきかなかった…F

•ある時となり(スジの家)の某が○×を食べていると言うので、行ってみると確かに食べていた…H

•病人は「自分はどこから来た」としゃべりながら、3~4人で押さえてもはね返されてしまうような力を出す…J

•ゴンボダネに憑かれた時、腕に玉のようなものが出来、全く治らぬまま10日間たつと熱が出、眠れなくなった…C

•ゴンボダネに憑かれた病人が寝ていて、「オレの本性が裏に来ちよる」というので、そこにいるうちの1人が裏口をあけると、人が逃げて行った。それは憑いたと噂されている人が様子を見にきたのだが、病人にそれを言われ、びっくりして逃げ帰ったのである…L

•ゴンボダネがついた時、憑かれた者は玉の汗を流したりしてウワゴトをいうが、このウワゴトはゴンボスジの人がその時話していることと一言一言ちがわぬというし、また「俺は何某だ、何々が欲しい」と口走り、どのゴンボダネの人が憑いたかが判ると伝えている。¹⁰⁾

•取憑いた者の思ふ事考へる事を言ふのであってたとへばどこそこの田圃へ行って何かを仕様とか、是から何々の仕事に取掛ろうとかいふような事を言ふ。此の時尙かに其取憑いた本人の動静を伺ふと夫が一適中するそうである。¹¹⁾

•X部落では、朝顔を作っても牛蒡種に「大変綺麗ですなー」と褒められたところ、次の日から花が咲かなくなったという¹²⁾し、蔬菜も枯れてしまいます。また陶器など「立派だ」と褒められたところ間もなく陶器が壊れてしまったそうです。またYの話ですが、ある人が写真を撮ったところ、牛蒡種筋の娘の顔が真黒になっていた。また別の話ですが、骨董屋がけて物を買いに出かけた折、たまたま面を手に入れたのですが、買う折りはいい色艶の面だったのに、牛蒡種がその面を見て「いい面ですなー」と褒めたところ、その面の色艶が少し違って来たといっていました。

牛蒡種に取憑かれると発熱し、食欲不振となり、うわごとを口走り、取憑いた牛蒡種がいまどうしているなどと牛蒡の動勢をよく喋ります。普通は1週間でおおるのですが、時には2~3か月におよぶこともあり、また死亡することさえあります。また人によっては障子の櫓に取りつき、天井へ登るといふよう

な身の軽い動きをします。(須田が某高校の元校長から聞いた話¹³⁾)

・私が昔診察したことがあります、その折の患者は女の人で、旺んに喋り続け、錯視、錯覚があったようです。また「狐がどうした……」などと口走っていました。(須田が某開業医から聞いた話¹⁴⁾)

・アキハラ(出産直後)に憑かれると、症状が重い…C、E

＜スジと非スジの交際＞

(a)スジに対する非スジの態度

・日常生活に於ては何の支障もない…B、C、E、F、H、J、L

・本当にきらいな人は、道の向う側からゴンボダネの人が歩いてくるのを見ただけで、横道に避けてしまった…A

・子供の頃、ゴンボダネの家の子と遊ぶなど言われた者もいた…A

・ゴンボダネに憑かれないように、その家の前を顔をそむけ、走って通る人がいた…A、J

・此種族の者居住し、或其家から女を妻に貰った男などは、妻に對して如何ともすることが出来ず、一朝妻の怒に觸れると夫は勿ち病人となると云ふ有様なので、此種の女を女房に持った亭主は、是非なく〱洗濯もすれば針仕事もすると云ふやうなわけで、全く奴隷同様な境遇に落ちて了ふと云ふ話である。¹⁵⁾

(b)スジ側の態度

・利口な人は取憑いている人の家に行き、「オレと一緒に帰ろう」と言って病人を連れて帰った…J

・私(話者)の知っている人では、私の家に病人が出た時、「私はゴンボダネなんで、取憑いちゃ悪いから見舞には行けん」といい、来なかった…L

・ゴンボダネの家には6尺程の稲荷を祀っている家があり、家人はキツネの好物をあげて人に憑かないよう祈っていた。これはゴンボダネといわれるようになってから祀ったもので、本来祀っていたものではないらしい…L

・畑の中の岩のところ、神棚のようなものをつくって、氏神らしきもの(何であるか不明)を祀って憑かないようにしてくれと願っていた人がいた…E

筆者コメント・キツネとゴンボダネの混合がみられるので、ここでキツネとの相違についての聞き書きを記す。

• 神道修成派の人の話によると、ゴンボダネは治りやすいが、キツネだと治しにくい…L

• キツネに憑かれたのかゴンボダネかは脈でわかるが、キツネだと非常に治りにくい…E

• キツネはゴンボダネの家の名前を借りて憑く…L

<憑きもの落とし>

• 病人を真中に寝かせ、親せきの人が集まり、数珠をまわし、シンミョウ（お経）を唱えて攻める。そうすると「自分は帰る」というので、後をつけて行くと、ゴンボダネの家に入って行った…L

• 八掛見に見てもらおうと、具体的な名は言わないが、〇×方向の人が憑いたと言う…C

• 八掛見の人が憑きもの判断をするが、落としてくれることはなかった…F

• まず憑かれた人を八掛見に見てもらい、それから祈禱師に取り除いてもらった…G

• 御岳講の行者を呼んでハナラカシてもらったものだが、行者は神に水と塩を供え、オオバラエという祝詞をあげ、部屋中を歩き回った。そして体にできた玉を頭の前から足先まで撫で、（これはとても痛い）足から出し、包んで行者の指定した場所に埋めた…C

• 御岳講の人が祝詞をあげていると、立てておいた御幣がブルブル震え出す。すると御岳講の人が書いたものを水に入れ、その水を飲ませたり、川に流したり、蔵に貼って、ゴンボダネが離れるよう祈った…A

• 憑かれると御岳行者を頼むが、そうすると別の人を連れてくる。その人は神の代りをする人で、床の間の方を向き、幣束をもっていると震え出し、それから180度方向をかえて、控えて平伏していた祈禱師に、わけのわからないことをペラペラ言うと落ちる。しゃべった言葉は祈禱師には理解でき、後から皆に説明してくれる…F

• 祈禱している間、病人は眠くなり、気を失ってしまい、治るとシャンとする。失敗して死んでしまったこともあった…K

• 九字を切って憑きものを落とししたが、行者の位によって落とす能力も違う…

J

・ゴンボダネの妻をもらった男が、喧嘩をするたびにカミサンに憑かれ、いつも「またカカアに憑かれた」と言って行者に落としてもらっているうちに、いつのまにか落とし方を覚えてしまった。そのうちに自分で落とすようになり、遂には他人のものも落とせるようになった…L

・牛蒡種に取憑かれた時は、何でもいいからお払いをすればいいのですが、いつだったか私が牛蒡種に取憑かれて困っているが、神主さんが不在だから学校の先生なら何とかなる。どうかお払いしてくれと頼まれて、その家に案内されました。たしか嫁さんのような人が、大声で怒鳴り苦しんでいましたので、御幣を作りお払いしましたところ牛蒡種が離れました。私は別に御祈禱を知っている訳ではありませんが、その折はどうしても断り切れずに、苦しまぎれに御祈禱のまねをしたのですが、本当に落ちたのですよ。(前郷土館長談¹⁶⁾)

・私(某警察署の部長)が経験したことだが、Z村の某所には特に威力の強い牛蒡種がいて、私が訪問した時は明日をも知れぬほど衰弱していた。私は一見してすぐ牛蒡種だと解ったので、すぐに落としてやろうとお経を唱えたのですが、その衰弱きった無学文盲の牛蒡種も一緒にお経を唱えはじめたのです。

普通牛蒡種はお経を全部唱えなくても、途中でどうにか落ちるのが普通なので、よほど強い牛蒡種らしく、いつまでたっても落ちません。それで最後にはお経を斜めに読んだりしたところ、やっと牛蒡種が落ちたのです。(○山○三郎氏が某署長から聞いたものを須田に語る¹⁷⁾)

・牛蒡種に憑かれると、祈禱加持を以て攻立てゝ居ると、(病人を)其苦に堪へずして我は其村の某と名乗り、或は逐立てられて足腰のきかぬ病人が走って其家の戸口まで往って倒れる。さうすれば物憑は落ちたのである。又どうしても動くことのならぬ病人であれば、其憑いて居ると云ふ牛蒡種の本人を連れて来て、病人を介抱させると落ちるとも云ふ。勿論彼者は覺えの無いことを主張するが、自稱被害者がどうしても承知をせず、強ひて引張って来るのである。¹⁸⁾

・この近くの祈禱師で治らない時には、祈禱師が患者を秩父の三峰神社に連れて行って落としてもらった…B

<註>

- 1) 野崎寿「飛驒の牛蒡種」(『郷土研究』4の8)
住広造「牛蒡種の事」(『郷土研究』4の11)
葛谷利春「ごんぼ種考」(『飛驒春秋』12の2・3・4・5・7)
李坪道人「片々録」(『飛驒春秋』5の11・6の2)
李坪道人「啓上録」(『飛驒春秋』6の3) etc.
- 2) 須田圭三『憑きもの俗信—飛驒の牛蒡種』非売品 p 119
- 3) 2) 参照 p 16
- 4) 2) 参照 p 18
- 5) 国学院大学民俗学研究会「岐阜県上宝村」(『民俗探訪』) 昭32、p 120
- 6) 5) 参照 p 120
- 7) 2) 参照 p 42
- 8) 住広造「牛蒡種の事」(『郷土研究』4の11) p 670
- 9) 野崎寿「飛驒の牛蒡種」(『郷土研究』4の8) p 494
- 10) 8) 参照 p 55
- 11) 大森義憲・向山雅重・望月董弘・加藤参郎・河上一郎『南中部の民間信仰』明玄書房 昭48 p 266
- 12) 同様の例ではスジの人が他人のよくできている農作物を見て「けなるい(羨しい)なあ」と思うとこれだけでその作物は徐々に萎縮して枯れてしまう。—李坪道人「片々録」(『飛驒史壇』6の2) p 25
- 13) 2) 参照 p 9
- 14) 2) 参照 p 12~13
- 15) 9) 参照 p 494
- 16) 2) 参照 p 14
- 17) 2) 参照 p 17
- 18) 柳田国男「巫女考」(『定本柳田国男集』9) p 259